



「サーサー」の掛け声で復活したサーフユニーチを担ぐ久米実行委員会のメンバーら  
 25日、那覇市久米の久米公園

## 76年ぶり天に舞う 久米西門 1番旗



幻の旗頭といわれた久米西門旗頭の1番旗「サーフユニーチ」(斧鉞)がこのほど復活し、入魂式が25日、那覇市久米公園で行われた。

久米西門は、2番旗といわれている「水仙」「撫子」「不染塵」などの旗頭があるが、1番旗の「サーフユニーチ」は1935年に途絶えていた。76年ぶりに復元された「サーフユニーチ」は、高さ7尺70、重さは約60キあり、名の由来となっている斧より大きな金色の鉞が頂部にそびえる。

式では約50人の久米実行委員会のメンバーらが「サーサー」の掛け声とともにドラを打ち鳴らし、一人ずつ交互に約20分間担ぎ上げた。同委員会龍旗会団長の仲里能佳さん(34)は「過去の文献を見て徹夜をしながらようやく復活できた。那覇大綱挽ではひときわ目立つと思う」と話した。